

以下の記述を読んであなたの思うところを 800 字以内で述べなさい。

求められるのは意味を理解する人材

では、AI に代替されない人材とはどのような能力を持った人なのでしょう。それは、意味を理解する能力です。第 2 章で詳しく見てきたとおり、AI は意味を理解しないからです。

「1、3、5、7 の平均はいくつか」と問われると、日本では大学進学希望の高校生のほぼ 100% が $(1+3+5+7) \div 4 = 4$ と正しく答えることができます。国民の半分以上が平均の公式を運用できる国は、日本とシンガポールくらいしかないかもしれません。では、その平均の意味はわかっているのでしょうか？

ある中学校の 3 年生の生徒 100 人の身長を測り、その平均を計算すると 163.5cm になりました。この結果から確実に正しいと言えるのは、次のうちどれでしょう。

- ①身長が 163.5 cm よりも高い生徒と低い生徒は、それぞれ 50 人ずついる。
- ②100 人の生徒全員の身長をたすと、 $163.5\text{cm} \times 100 = 16350\text{cm}$ になる。
- ③身長を 10cm ごとに「130cm 以上で 140cm 未満の生徒」「140 cm 以上で 150 cm 未満の生徒」…と
いうように分けると、「160cm 以上で 170cm 未満の生徒」が最も多い。

本章の最初にお話した、「大学生数学基本調査」の問題の一つです。

正解は「②だけ」です。①は中央値の、③は最頻値の性質です。けれども、大学生の 4 人に 1 人は正しく答えられませんでした。公式は知っている、でも意味はわかっていないのです。

今後、統計解析ソフトである R、さらにはグーグルが無償公開したような統計に基づく機械学習ソフト群テンソルフローを使いこなす人も増えていくでしょう。けれども、本当に重要なのは、平均と中央値が異なるように、それが何を意味しているか、それがどんなリスクを含んでいるのかを理解する人材です。

AI を取り入れている大企業では、AI の中身、つまり数学を理解する人間の世界的な奪い合いが始まっています。グーグルが、たとえ日本的な意味で KY であろうが、有能な数学博士や数学オリンピックの金メダル受賞者を高給で買い占めていることはつとに知られています。残念なことに、日本の企業は文系がトップに座していることが多いからでしょうか、自分とコミュニケーションが取れないような数学出身者を使いこなすことができず、ここでも大きく出遅れています。AI を活用できる人材は当面有用でしょうが、賞味期限はそれほど長くないだろうと私は予想しています。「ウェブ」という言葉が魔法のように見えた 2000 年、ウェブクリエイターはホームページを作れるというだけで、もてはやされました。しかし、10 年でその価値は暴落しました。重要なのは、新しいソフトウェアを使いこなすことができるかどうかではないのです。その中身、使うべきポイントや弱点を論理的に理解しているか否かです。

(新井紀子著『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』 東洋経済新報社 2018 年 Pp.232～234)